

安心安全運航を目指して

1：初めに、

汽船 だいとう は南北大東島を結び南北大東島の皆さんの生活を支える船で、沖縄県の離島航路の中でも唯一外洋を航行し、陸岸線から大きく離れて航行する船です。そのため安全運航を第一としお客様からお預かりした大切な荷物やお客様を沖縄本島から南北大東島へ、南北大東島から沖縄本島にお運びいたしております。

2：安全方針

- 安全は全てにおいて優先する
- 関係法令及び諸規定を理解・遵守し安全安心な運航を提供いたします
- 常に安全安心な運航の維持・向上に努めます。
- 乗組員及び陸上職員など弊社すべての社員の安全意識の啓蒙を高めていきます。

3：最新の海象情報を常に入手

汽船 だいとう の船長と運航管理者は常に最新の海象情報をネット、テレビ、ラジオ、携帯電話から入手し、航海予定海域の風、波の状況を把握し航海の可否を判断して 汽船 だいとう を運航いたしております。

4：各港における出航判断基準

風速	15m/s以上	波高	1m以上	視程	500m以下
----	---------	----	------	----	--------

泊港・那覇新港・北大東島各港・南大東島各港の出港は上記の基準により出航 V の可否を判断いたしております。

5：陸上との通信

汽船 だいとう は外洋を航行するため陸との意思疎通が常時できるように連絡手段を衛星電話・Fax、無線電話などにより確保しています。通信機器を扱えるように国家資格を有する船員を絶えず乗船させております。

6：救命設備

汽船 だいとう 救命いかだ、救命浮環など だいとう が何らかの要因で致命的な損傷を受けた場合でもお客様をお守りするための救命設備を備えております。

救命胴衣	救命いかだ	救命・支援艇
117着	25名×4ヶ	1艇（乗組員4名）

7：保険加入について

汽船 だいとう は船内でお客様に万が一の事案が発生した場合に保障できるように、最高保障金額3億円の船客障害賠償責任保険に加入しています。

8：船舶検査について

汽船 だいとう は船舶安全法及び海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律に従って毎年県外造船所にて定期検査（5年に1度）・中間検査（定期検査を受けない年）等の国の定める検査を受検し合格しております。令和4年5月29日に中間検査受験し、検査合格をいただいております。

また、汽船 だいとう の船長は船員法並びに海上運送法の定める規定により船舶の安全安心運航に必要な諸取り組みを実践しております。その他乗組員も定期的に開催される安全講習を受講し、常に安全安心な航海を心がけております。

9：汽船 だいとう に搭載している設備・機器類

○ GMDSS：Global Maritime Distress and Safety System（海上における遭難及び安全の世界的制度）



衛星通信技術やデジタル通信技術を利用することによって、モールス信号のような専門的な技術を必要とせず誰でも迅速かつ確実に、遭難・安全通信を行うことを可能にしたシステムです。

○ 衛星電話



通信衛星 と直接通信する 電話機 を使用した 電話網 を提供するサービスです。 衛星電話は、電線（現在は 光ケーブル やマイクロ波回線も使う）を使った有線電話（ 固定電話 ）や地上の無線通信技術を用いた携帯電話と比較して、通話可能地域が広いほか、地上設備が少ない通信網が技術的には提供できます。携帯電話で通話できない海上でも通話ができ、緊急時には海上保安庁、掖済会病院と連絡をとり非常事態に対処できるようにしております。

○救命胴衣



大人用 85個
子供用 29個
幼児用 3個
（船員用 30個）
備えています

○救命いかだ

不燃の非常時に白いカプセルを海面に落とすとカプセルからゴム製の筏にガスが入り膨らみ海に浮くようになっています。



1：カプセル（1筏）25名の定員です
2：カプセル×4（左舷・右舷、それぞれ2ヶ）計100名

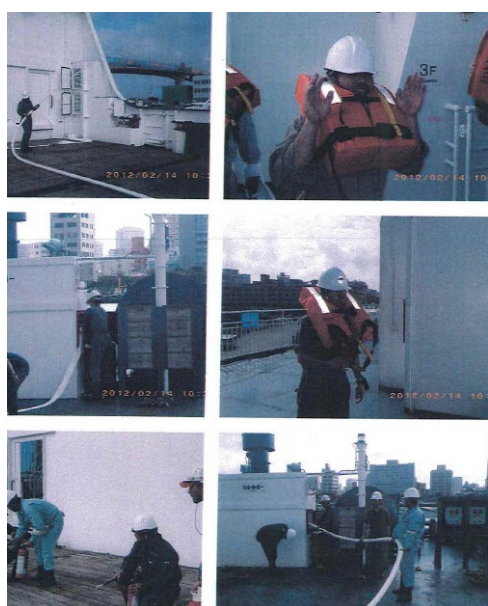
10：操練の実施

大東海運では船員法に従い様々な操練（防火操練・防水操練、油濁防止操練、救命艇操作操練、退船操練、非常操舵操練）と呼ばれる訓練を定期的実施しています。非常時における乗組員の技能習・得向上を目的としています。消火器・消火ホースで火を消す訓練（防火操練）排水ポンプを稼働させて排水を行う訓練（防水操練）救命ボートを海面に降ろす、救命いかだの使用手順を確認する訓練（退船操練）etc を実施しています。

○退船操練



○防火操練



普段より各種操練と呼ばれる訓練を実施し、もしもの事態に備えています。